

新刊紹介



図解
雨漏り事件簿
原因調査と対策のポイント

監修：雨漏り110番技術班
著者：玉水新吾・唐鎌謙二
企画：(一社)日本建築協会
発行：学芸出版社
仕様：A5版 216ページ
定価：2,500円(税別)

建築主が入居後に最も嫌う現象のひとつに雨漏りがある。(財)住宅保証機構(現・(一財)住宅保証支援機構)の補償状況をみると、全体の約85%が屋根・壁・防水の雨漏り関連で、雨漏りの補償件数では外壁が圧倒的に多く、次いで屋根となっている。雨漏りは、屋根から雨漏りしているのではないかという印象があるが、補償件数は屋根よりも外壁が多いという。

雨漏りを修理する場合に、雨水の浸出口は雨漏り現象としてあきらかだが、雨水の浸入口をすべて見つけなければならぬ。しかし、雨水の全浸入口を的確に見つけ、適切に補修することはなかなか大変なことである。

そこで本書は、雨漏りの原因究明・補修工事に携わっている関係者で構成される特定非営利活動法人(NPO法

人)「雨漏り診断士協会」「雨漏りネットワーク」所属メンバーから提供された雨漏り事例をもとに、雨漏りの原因究明が難しい雨水浸入口別に分類し、対策を紹介している。

二部構成のうち、第一部で雨漏りに関する基礎知識を解説し、第二部では雨漏りの多い「屋根・軒先」「壁」「バルコニー」の三部位ごとに実際の事例を選別して、対象物件の概要、原因調査・特定、対策などを記したヒアリングシートと一緒に現場写真や図を掲載してわかりやすく説明している。

イチから経験していたら数十年かかるノウハウがぎっしり詰め込まれている本書を手にとって雨漏りに立ち向かっていただきたいと思うのだがいかがだろうか。